



## 1 阿南市善行青少年表彰と防犯教室

令和5年1月21日(土)に第55回阿南市社会福祉大会が開催され、阿南市長表彰として**徳島県立富岡東高等学校 JRC部**が受賞されました。長年地域のボランティア活動等に継続して熱心に取り組んでいることが評価されました。おめでとうございます。

副部長 藤枝百希(ふじえだもも)さん 左 中田晴愛(なかだはるあ)さん 右



表原市長から表彰を受ける



防犯教室(見能林幼稚園(12/21))



防犯教室(椿泊小学校(12/22))



防犯教室(長生小学校(1/17))



## 2 白ポストでの有害図書類回収

### 令和4年度 白ポストによる有害図書類の回収状況

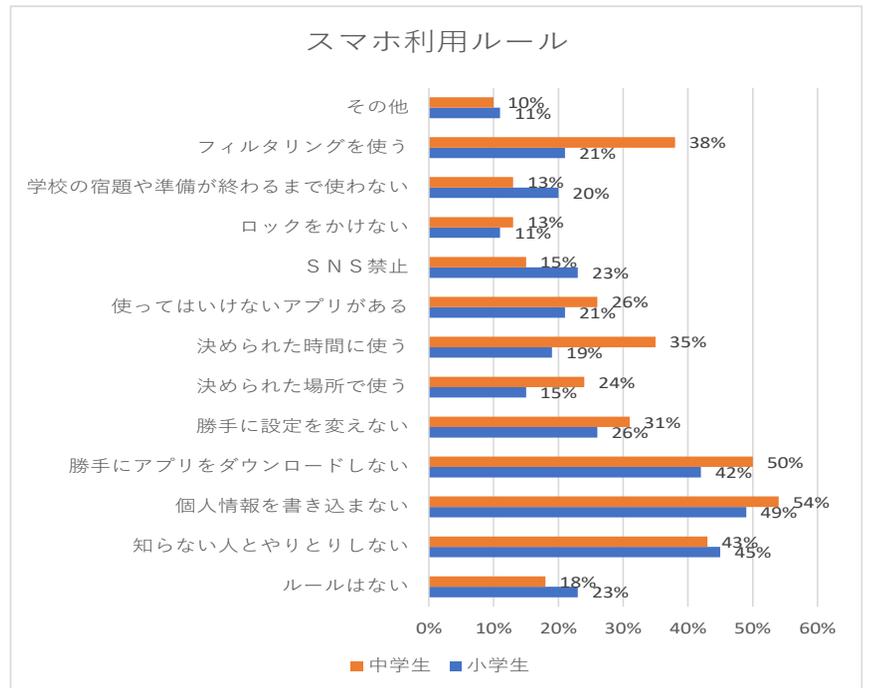
月	漫画	小説	雑誌	写真集	ビデオ	CD	DVD	その他	合計
4月	16	0	17	0	0	0	103	0	136
5月	0	8	32	0	0	0	57	0	97
6月	0	2	0	0	0	0	43	0	45
7月	12	1	9	0	0	0	64	0	86
8月	8	0	0	0	0	0	29	0	37
9月	0	0	15	0	0	0	117	0	132
10月	16	0	0	0	0	0	30	0	46
11月	0	0	18	0	0	0	47	0	65
12月	0	0	8	0	0	0	65	0	73
1月	3	0	43	0	1	0	59	0	106
2月	0	2	42	0	0	0	81	0	125
合計	55	13	184	0	1	0	695	0	948

有害図書類を回収する目的で、JR阿南駅・羽ノ浦駅・橋駅・ひまわり会館の4ヶ所に白ポストを設置しています。毎年、有害図書を青少年にさすこと無く回収にご協力いただきありがとうございます。回収傾向としてDVDの数が圧倒的に多くなっていることを含め心配される場所ですが、引き続き回収へのご協力をよろしくお願い致します。

## 3 スマホ初心者の人、参考にしてください

年度末のこの時期、4月からの新生活に向けて、スマホを所持するお子さんも増えてくると思われます。特にネット利用について、あまり知られていない状況もまとめてみました。参考にしてください。

インターネットは、多くの人々にとってなくてはならない身近なコミュニケーションツールとなっています。一方で、見えにくい**トラブル(スマホ依存やゲーム依存等)につながる状況もあります**。そこで、スマホ所持者は**どんなルールを作っているのでしょうか**。次のグラフは民間の会社が独自にアンケート調査をした結果を示したものです。**具体例として参考にしながら、家庭・学校・地域の環境によって柔軟に応用し活用ください**。



◆スマホを持つ時、**約8割が利用についてのルールを決めています**。  
◆具体的なルールの内容も見てみましょう。

親と最初に約束したルールの内容について聞いてみると、大きく4つに分類されていました。

- ① **スマホ利用の場所ルール**
  - ・自分の部屋には持っていかない
  - ・リビングで使う
  - ・食事中、勉強中は禁止
  - ・親がいない時はいじらない
- ② **利用時間のルール**
  - ・〇時以降禁止 ※20時~22時の間での設定が多数
  - ・一日〇時間まで ※1時間、2時間など
- ③ **アプリの利用のルール**
  - ・課金はしない ※多数
  - ・勝手にアプリをダウンロードしない(親に確認する)
  - ・ゲームは禁止
  - ・SNSはLINEのみ
  - ・LINEは禁止
  - ・LINEは家族のみ
- ④ **その他利用のルール**
  - ・姿勢に注意する
  - ・テストの前は親に預ける
  - ・宿題等、やることが終わってから
  - ・歩きスマホはしない
  - ・人に迷惑をかけない
  - ・知らない人にLINEや電話番号、住所を絶対に教えない
  - ・怪しいサイトには手をださない

## 4 あなたの言葉があなたの未来をつくる

次の文章は、以前高校生たちに向けて書き送ったものです。今一度皆さんにお伝えし、共有できればと思います。

昔から、言葉には魂が宿ると言われています。いわゆる『言霊(ことだま)』です。実際、私たちは、誰かの一言で深く傷ついたり、逆に立ち直ったりしてきました。私たちの「思い」は言葉で表現されるからです。そして、その言葉は必要な情報として脳に認識され、「できる」といえば、できる理由・根拠を見つけるように動き、「できない」「だめだ」といえば、できない理由や根拠になることを探し出し、さらに引き寄せる。ネガティブワードばかり使っていると、それがその人には必要な情報だと脳は判断するようになる。**良きにつけ悪きにつけ、あなたの言葉があなたの未来を引き寄せるのです。**

それならば、ポジティブな言葉を使えば、明るい未来の実現につながるはず。ポジティブな言葉は、自分や相手を褒めたり励ましたりするときに使います。未来に向けて希望的な思いを表すときに使います。

私の息子が社会人になりしばらくした頃から、仕事から帰ると、まず「疲れた〜」といつもつぶやくようになりました。私もよく聞いていましたが、その「疲れた〜」は、自分だけではなく、それを聞く幼い子どもにも悪い影響を与えることを心配しました。「仕事って、疲れる嫌なもの」という意識を子どもたちは抱くのではと。その概念を息子に伝えたところ、納得し、それなら、「明日からは、『頑張ったよ〜!』と言うことにする。」と答えました。「頑張ったよ〜!」と言うようになって、数日してから「不思議に、疲れをあまり感じなくなった」という報告を聞き、言葉のパワーに私の方が驚きました。

感動したり楽しんだりした時のトークを増やせば、おのずとポジティブな言葉を口にするようになります。皆さんもぜひネガティブワードをしない・使わない決意をして、今日から3週間、実践してみてください。3週間後、何かが変わり始めたことに気がつくでしょう。きっと、運が開け、幸せな未来に向かっていくことでしょう。簡単な実践です。少しやってみませんか!

本年度の「センターだより」はこれが最終回になります。いつも文字が多くてすみませんでした。でも、「読んでいます」という声が多く寄せられるようになり、とても嬉しく思います。4年間ありがとうございました。(生徒指導主事 土井正史)